

死後どうなるのか？



■□■ 本来の姿が霊である



└■ 意識



私たちの身体は、地球の物質で形成されています。私たちは、生まれた瞬間から地球を吸ったり吐いたりしています。私たちは、地球の子です。意識は、どこから来たのでしょうか？

それは、地球からです。地球のなかに、”存在を認識する意識”が初めからあったのです。地球は、太陽の爆発で散らばった物質が集結し形成されたものです。地球の要素は、太陽のなかにあったものです。

太陽系や全ての惑星は、ビッグバンという宇宙の爆発より生み出されています。まだ、宇宙に物質の無い時、何があったのでしょうか。それは、存在です。存在という意識です。存在は、存在を再認識するために、あらゆる存在を生み出

しました。

そうすることで、存在は自分の存在を改めて認識することが出来るようになったのです。

存在（そんざい）とは、あること。あるいは、いること。また、そのある（いる）何か。

┌

└■ **存在の分け御霊**

私たちは、宇宙誕生前からある存在意識の個として創造されております。それを私たちは「霊」と読んでいます。

霊は、地球が誕生する前から存在をしています。なぜなら、存在だからです。そして、地球が誕生し人類が誕生してその身体に霊を注ぎ込むことが出来るようになりました。

人として生まれた霊を「人霊（じんれい）」と言います。地球を体験したことになります。地球の要素を使って、自分という存在を再認識したことになります。存在は、存在を再認識するために、あらゆる存在を生み出しました。

と同じように、霊は霊を再認識したくてうずうずしています。地球への体験は、一度しか出来ないようになっていません。何度も、何度も、体験できるのです。

そして、男・女などあらゆる角度から相対性のなかで「存在の再認識」をしているのです。

┌

└■ **地球は旅である**

霊の数は、創造されたとき数も決められています。星の数は無限のようだと表現されますが、実際には個数は決まっています。

数えきれませんが、霊の数もスタートの時点で数が決まっています。いろんなことが体験できる地球は、霊にとってとても魅力的です。

辛いことも、悲しいことも、体験ができるのです。

よく、「地球は魂の小学校のようなところだ」と聞くことがあります。

とんでもありません！

内戦を乗り越り、
戦争を乗り越り、
大災害を乗り越り切ることのできる
とても優秀な霊たちが集まる
大学を越えた学校であり、

霊の旅先なのです。

■□■ | つが10である

┌
└■ **バランスの取れた矛盾**

よく聞かれることがあります。「私には、守護霊さんはい
ますか」「守護霊さんは、何人もいるのですか」と。
これを正しく伝えるのがとても難しいのです。

例えですが、懐中電灯10個用意します。10個の懐中電

灯の光を一カ所に集めます。すると、1個の光よりはるかに眩しい光になります。では、聞きます。一カ所に集められた光は、何個でしょうか？

答えは、1つですね。でも、本体は10個です。

1個であるが10個である！という矛盾が起こります。これが、守護霊さんたちにも当てはまります。守護霊たちは、光として1つで現れます。しかし、その光のなかには、人もの霊が同時に存在をしております。その1つの光のなかで、霊たちは次のように考えています。

「1つの私しかない」と。

□

└─ ■ **心はひとつ**

ジャニーズや AKB48 など、同じ好き者同士がファンとして集まります。その時、ファンがアイドルへ思う気持ちは同じです。同じ話で盛り上がり、コンサート会場で互いに共鳴し合います。この時、心がひとつになります。誰かと誰かは、別々だ。あなたと私は、違う。などありませんね。

性別も年齢も関係なくなります。

「好き」「憧れ」でつながるのですね。守護霊たちも同じです。みんな同じ思いで、生きている人が”十分に自分自身を表現”できるように応援してくれています。この思いは、ひとつです。

┌

└■ **身体と霊は同時に存在する**

もう一つ矛盾に思えることがあります。矛盾のなかのバランスと捉えて下さい。

私たちは、「身体と霊として同時に生きている」ということです。

身体の中に魂が入っているではありません。

霊という存在エネルギーのなかに身体があるのです。

良く分かりませんよね。身体に生命が宿っている。のではなく、生命のなかに身体が形成されている。ということです。良く分かりませんよね。

魚に命が宿っている。のではなく、母なる海のなかに魚として誕生しています。海が生命そのものです。海なくして、魚は生きられません。

私たちも身体としての自分と霊としての自分、両方が同時に生きています。

両方が同時に存在をしています。なので、今こうして読んでいる時も、本当の自分（霊）は、霊界に住んでいるのです。霊界に住みながら地球に住んでいるのです。もっと、分からなくなりますよね。

でも、覚えておいてください。小学校で九九の掛け算を覚えたように、ただただ覚えておいてください。

『私たちは、霊界に住みながら地球に住んでいる』と。

■□■ 死の自覚から意識の統合



■ 自覚をすることが第一歩

死を迎えると、大きく分けて次のことが自分自身に起こります。

- ①自分で自分の姿を見る
- ②
- ②草原や川など心地よい自然の中にいる

イメージして下さい。

『病院にあなたは、寝ています。年齢93歳を過ぎ、そろそろ迎えの時間がやってきたようです。日に日に、弱くなっていきます。医者からもそろそろです、と家族に伝えられました。』

あなたの意識も、日に日にボーっとすることが多くなっていきます。過去の記憶がよみがえり、20代だったころの話を家族にしたりします。

話の内容も過去と現在が混じり合ってしまいます。自分でも、そろそろ迎えが来るのでは、と思うこともあります。そして、フツ気が付くと、子ども、孫たち、多くの家族が、

お見舞いに来てくれていました。あなたは、家族に感謝の気持ちと色々な話をしてあげます。

が、

が、

何だか、様子がおかしいことに気が付きます。こちらが話しをしても、反応がありません。更に気が付くと、そこに自分自身の姿があります。

頭が、混乱します。私は、ここに居るのに、私が、ベッドに寝ているのです。あなたは、まだ死んだことを知りません。自分がどういう状況になっているか頭がボーっとして良く分かりません。

しばらくすると、家族たちから次のような言葉が聞こえてきます。

「長生きしたよ」「ありがとうね」「死じゃったんだね」と。

ますます、良く分からなくなります。なぜなら、私はここに居るからです。』

②もう一つの話です

60歳からガンになり、通院しながら今年で67歳になりました。ボケも始まり、ご飯を食べたのか食べてないのかも分からな時があります。あまり先も長くないと気が付いています。それは急に起こりました！

突然、小花が咲く草原のなかに居るのです。とても心地が良いです。どこでしょう。

ここがどこだか分かりませんが、それ以上考えることもしません。ただただ、心地よくきれいなところにいます。

いったい何が起こったのか、自分自身でも分かりません。
(死んだことに気が付いていません。)

□

└■ **死の自覚**

死を迎えると、自分で自分の姿を見たり、家族に話しかけても反応がなくなります。また、三途の川もそうですが自然の中に自分が居る状況になります。

この2種類は、どちらになるか分かりません。その人の状況に合わせて、混乱をしないように守護霊たちの配慮があるからです。次に起こることが、死んだことに気が付くことです。

①の場合も、②の場合も、自分が死んだことに気が付きません。

なぜなら、自分はここに居るからです。死んでも体があるのですから。不思議でたまりません。でも、必ず死んだことを理解しはじめます。

先に亡くなっている人、例えば祖父母、父母、親友、配偶者があなたに死んだことを伝えに来ます。

でも、

まだ生きるべきだというのなら、「こっちに来るな」と伝え、あなたは奇跡的に生き返るでしょう。年を重ねて自然の摂理に従って亡くなった場合、あなたは死んだことを自覚していきます。



意識の統合

死を迎えると脳の働きが無くなります。脳の働きがなくなるので意識と無意識の統合が始まります。私たちのほとんどが、意識・無意識・超意識を別々のものとして考えます。

脳の働きによって意識の分類をしますので死を迎えて肉体がなくなると意識の統合が始まります。今まで体験してきた内容が走馬灯のように全てが同時に思い出されます。

この時、少し大変です。

なぜなら、自分が言った言葉を相手の立場になって聞いているということが起こるからです。自分のしたことを相手の立場にたって思い出します。これが意識の統合です。

死を迎える



死を自覚する



意識の統合

この間、先祖霊や守護霊が必ずそばにいます。特に、守護霊は生まれる前から死んでからも片時も離れることはありません。

□

└■ **大自然の法**

成熟（せいじゅく）とは

- ①果物や穀物などが熟する事。
- ②生物の心や体が十分に発達すること。普通は生殖能力を持つこと、特に有性生殖が可能になる時期をもって成熟と見なす。

とあります。

これは、大自然の法です。全ての物は、成熟へ向かうのが自然です。リンゴの実を途中で取ってしまうと、美味しくありません。

未熟です。

成熟した実は、種を持っていますので、新しい生命を育む

ことが出来ます。

人も同じです！

成熟して死を迎える場合と、自殺をして死を向かう場合は、
霊界へ戻ってからの歩みもまったく違います。生命力の劣
る状態ですので、なかなか心地よい状態になれません。何
年も、何十年もかかる場合があります。自殺をしてから死
後があることを知るのでは遅いですね。

『私たちは、霊界に住みながら地球に住んでいる』

と思い出しながら暮らしを立てていきましょう。未熟なま
ま戻ると、未熟な領域に行くことになります。

■□■ 2つの壁

┌
└■ やってみたいんだよね

なぜ、私たちは地球へ誕生をしなければならないのでしょ

うか。それは、私たち自身が知っています。

2, 3歳頃になると頑固までの「自分でやる」という言葉と行動。誰に教えてもらわなくても、やりたくて体験したくてしょうがなくなります。これが答えだと思います。

霊は、地球へ来て頑固までの「経験したい」があるとしか考えられません。しかし、大人になると逆も出てきます。

「私は、自分でも何がしたいのかわかりません」

この言葉を使って良い人は、本当に多くのことを体験した人です。体験をしていない人が、この言葉をよく使っています。なぜでしょうかね？

日本だけでも、何と多くの体験があるのだろう！そう思いませんか。最終的に、霊は何になりたいの？

答えは簡単です。

子どもの頃、何になりたかったですか？。それが答えです。その連続です。その連続の先にあるものは、人それぞれです。霊としてもそれぞれです。まだまだ、旅は続きます。これ！と決めない方が良いでしょう。



■ なぜ争いが起こるのか

では、なぜ地球には、楽しくない逆の争いが起こるのだろうか？

私たち霊は、地球へ一度も生まれることがなかった時、同じ霊として何の争いも憎しみも恨みも持っていませんでした。そして、全ての霊が「共に生き、共に歩もう」と誓い「ワクワク」しながら地球へ旅立ちました。しかし、次のことが起こってしまいました。

それが、①食 ②住む場所です。

生まれてくる前に、この2つは無かったのです。急に2つのことをしなければならなくなると、どうなると思いますか？

それが、食の奪い合いと領地の奪い合いです。

なぜ奪い合うのか？

それは簡単です。

「身近な家族が好きだからです」。お腹が減り、死にそんな家族のために食を奪ってしまうことも出てきます。領地が多ければ、穀物がたくさん採れて家族が笑顔で過ごせるのです。

この①食 ②住む場所が時代とともに、王様と奴隷を生み、多くの血が流されてきました。でも、原点は、家族のためだったのです。これを一般的には「愛」という表現を使います。

霊の世界では「親和性」という表現が近いです。

┌

└■ バランスをとる

霊がもう一度、誕生することを再生（さいせい）と言います。生まれ変わり、と言われますが、霊が改めて生まれている、という表現の方が正しいです。

例えば、前の体験で人を殺してしまった場合、今回の人生で殺されるかと言えば、そうではありません。そんな簡単に、殺した側の命も粗末にしません。

人を殺してしまった場合、「思いやりの心」「命の大切さ」を知り、「人を助ける」ことで前世とのバランスを取ります。バランスです。霊の性質そのもののバランスをとるために誕生をします。が、旅であることに変わりません。

人生は、魂の修行だ、修行だ、と聞くこともありますが、修行のためではありません。修行は、自分自身の表現を高めるためであって、魂の修行ではありません。

心を整頓しつつ自分に出来る限りの体験をすること、これが霊にとっての宝物です。一日中、瞑想をして修行だけしていたのでは、これこそ、地球の恩恵を無視した生き方になります。

地球が生み出す食物、

地球が生み出す景色、

地球が生み出す音、

地球が生み出す香り、

感じてみましょう。



■ 死後

思い出してみてください。『私たちは、霊界に住みながら地球に住んでいる』地球に誕生をすると家族が出来ます。父母、兄弟などですね。

と同時に、霊の世界には霊の家族がいます。親和性で繋がれている霊たちです。血のつながる父母、兄弟の霊とは違います。同時に2つの世界を生きています。死を迎えると、肉体は地球に帰ります。霊は、親和性で繋がれている家族の元へ帰ります。

そして、次のことを霊界で考えます。

- ・体験したいこと
- ・霊のバランスをとるためにしなければならないことです。



■ 霊のあれこれ

- ・ 死を迎えても、個性は失わない。
- ・ 霊とは、宇宙の知的根源要素です。
- ・ 再生（霊が再び生まれる）は、早い霊でその日のうちに生まれます。遅い人でも数百年後には生まれます。
- ・ 霊は非物質。肉体は物質。霊の一部が肉体に留まることが出来るのは、中間物質を利用しているため。中間物質とは、磁気、静電気、赤外線、熱、水蒸気などを言います。
- ・ 死の自覚が大切であるが、戦争、自殺、恨みを持って亡くなる場合、長い間 死の自覚ができない。
- ・ 死の自覚ができないとどうなるのか？。その時の「感情のまま」と言うことです。すごく簡単な例えですが、足の小指を机の角で強くぶつけたとします。とても痛くて、激痛が走ります。しかし10分もすれば痛みはなくなり、記憶になります。死の自覚ができないということは、この激痛が何十年と続くと言うことです。

・死を迎えると、霊の世界へ戻ります。しかし、地球側から「可愛そうだ」「なんで死んでしまったのだ」「戻ってきてほしい」など、未練の思いを引きずると、故人は霊界での成長が遅れてしまいます。例えば、大学生になった子供に、毎日のように「大丈夫?」「早く帰っておいでよ」など電話したら勉強に打ち込めるだろうか。

・幽霊や祖霊が現れた時、正しい思いは次の通りです。
『あなたはもう亡くなっています。地球での生活のことを心配してはいけません。霊の世界にもあなたの家族が居て、あなたが来るのを待っています。霊界に連れていってくれるガイドさんが近くにいますので、お話を聞いてください。』これが正しい供養です。

・霊の世界は、地球に似ています。日本には日本の特徴があり、フランスにはフランスの特徴があります。霊の家族が居る場所も特徴において様々です。あなたは、どんなところに行くでしょうかね。

・暮らしのなかで親和性を育むと、死後、とっても温かい霊たちのなかで存在することになります。逆に、分離性を育むと、孤独な霊たちのなかで存在することになります。

・経験豊かな人は「最善」を知っています。守護霊もあな

たの人生で何が「最善」か知っています。瞑想のなかで、守護霊を意識することはとても良いことです。しかし、「守護霊さん助けて下さい」「守護霊さん何とかして下さい」などはダメです。「最善」を選択するために、インスピレーションを感じて下さい。

・孤独を感じている。虚しさを感じている。理解してくれないもどかしさ。不安でたまらない心。イライラしてどうしよもない。こうした心と感情は、霊の感情と心から離れていますよ、と教えてくれています。心の持ち方を学び、正しい行動パターンを習慣作ることが大切です。これを修行と言います。

・冬に田植えをして、どんなに頑張ってもお米は収穫できません。これは、自然の流れがあるからです。大自然の法です。この大自然の法を、神霊の摂理とも言われています。

・悪いことをしてしまった場合、それと同じ事が帰ってくるわけではありません。例えば-10のことをしてしまった場合、+10のことをすることでバランスを取るというイメージです。プラスは何かと言えば、笑顔を作る、理解する、一緒にやってみる、励ましてみる、祝福してみる、感謝する、見守る、参加してみる、Noと言わない、とにかくやってみる、とにかく行ってみる、一生懸命になる。

・イメージは大切です。しかし、イメージのなかでワクワクしていても何も起こりません。宇宙も動いてくれません。ワクワクして行動に移しカタチにすることです。霊は、これをしてたくて地球に誕生します。

・すべてはニュートラルです。ニュートラルとは、どちらにも属さないこと。中立。中性、無性です。大型台風が日本を横断したとします。農家は、台風は絶対に来てほしくない災害です。不景気で社員の給料が払えない瓦屋さんは、どうしても来て欲しい恵みの台風です。すべてはニュートラルですが、人がそこに意味を付けています。常に肯定的な側面も見られる人は、霊的に大きく成長している証です。

・成長とは、あらゆる角度から物事をとらえることが出来るということ。例えば、同じコップを見て、ある人は持つところが有ると言います。反対側から見ている人は、持つところは無いと言います。中間に居る人は、どちらも正解ですと言います。

・生きている間に霊を認識し、大自然の法に従って成長していくこと。そうすると、今の暮らしも豊かになるし、死んでからも豊かな霊たちに囲まれて存在します。